

信頼のギャンブル
——マカオカジノのVIPルームにおけるジャンケットの事例から——

劉 振 業*

Gamble of Trust:
The Case of Junkets in Macau Casino VIP Rooms

LIU Zhenye*

Abstract

In this article, the author examines the “gamble of trust” – betting on humanity in the case of junkets in Macau casino VIP rooms. A junket is an individual that carries out the gaming promotion activity by attracting wealthy clients from Mainland China to Macau’s VIP rooms. From the birth of junkets in the 19th century to the present, they are the middlemen who facilitate the link of capital between the different social systems of Mainland China and Macau.

Previous studies on junkets conclude that the Macau junket system is based on trust in informal practices such as only one quasi-legal document. This is often contrasted with the US junket system, which is governed by the formal rules and regulations – “credit-based gaming credit operations”. In response to this, there are many arguments for various legislative and regulatory enhancements that would place more importance on credit than on trust, to bring the Macau junket system closer to US-style casino management. On the other hand, some argue that the Macau junket system based on “trust” is a unique phenomenon of the “capitalism’s local articulation”, combining standardized organizational paradigms of US-style with organizational principles of Chinese culture [Wang and Zabielskis 2012: 137].

However, through the fieldwork on Macau junkets shows that the strong “trust”, which

* 京都大学人間・環境学研究科 ; Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University, Yoshida-nihonmatsu-cho, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8501/ karuma917@gmail.com

is the key element of the relationship with clients, does not always work well. Clients who sneak through the “one country, two systems” policy often abuse shortcomings in the law and put junkets at risk of debt collection by betraying the trust. This is a problem that arises between Mainland China and Macau, which was overlooked in the integration of the “Mainland China-Macau” perspective in the previous study that sees the junket system in Macau against that in the US.

This article aims to focus on the life of junkets that bet on humanity, which is happening at the same time as gamblers bet on casino games. In junkets’ reality, a they are middleman who oscillate in the “gamble of trust”, created by the antagonism between “untranslatable law” and “translatable trust” between Mainland China and Macau.

キーワード：マカオ、ジャンケット、信頼、ギャンブル、ミドルマン

Keywords: Macau, Junkets, Trust, Gamble, Middleman

はじめに

人類学において、異なる二つの空間や社会の接合（articulation）を促進する存在とされるミドルマンは重要視されてきた¹⁾。前川はミドルマンを、「包摂する大規模なシステムと地域のより小さなシステムの間の仲介者であり、時には社会において互いに衝突する集団間の交渉に積極的な役割を果たす『仲介者』と定義している〔前川 2000: 133〕。なお、ミドルマンの機能の一つとして、「外部からの包摂的な事象や制度に対して、内部の手持ちの類似の概念で『置き換えて』理解している」という「翻訳＝読み換え」の意味を持つ「翻訳的適応」が挙げられる〔前川 2000: 6-7〕。本稿は前川の定義を援用し、VIP客と巨額な賭け金の誘致を通じて、一国二制度のもとで中国大陆とマカオの間²⁾に、カジノ資本の接合を促進する役割を果たすジャンケットをミドルマンと見なし、彼らの「翻訳＝読み換え」の不適応による、人間性³⁾に賭ける「信頼のギャンブル」に着目する。

ジャンケットに関する研究を検討する前に、マカオのジャンケットとはどのような人々

1) 例えば、ミドルマンの重要性について、観光資源の創出〔曾 2001; Salazar 2012; 西崎 2017〕や伝統芸能の実践〔Nagatomo 2016〕、人事コンサルティングにおける可能性〔伊藤 2010〕などの研究が見られる。

2) 人口、土地面積、経済面などから見れば、中国大陆を包摂する大規模なシステムに、マカオを地域のより小さなシステムと見なすことが可能だが、後述する一国二制度のもとで、中国大陆とマカオにおける様々な社会制度が独自性を持っている。そのため、ある程度の対等性を持つ中国大陆とマカオの間を言及する際に、本稿では大規模と小規模なシステムといった用語を避ける。

なのか簡単に紹介する。ジャンケットの正式名称は「博彩中介人合作人」(casino junket operator)であり⁴⁾、広東語で「沓碼仔(日本語発音:ダウツマーザイ)」(chip roller)という通称で呼ばれる。本稿では、チップローラーではなく、日本で定着している呼び方である「ジャンケット」[JaIR 2020]に統一する。

ジャンケットとは、カジノへ富裕層の客(以下、クライアント)を誘致し、交通手段やホテルの宿泊を手配したり、滞在中の移動手段と食事世話をしたりする職業である。マカオにおいて、ジャンケットは政府公認の合法的な職業である。しかし実際、ジャンケットは公的に登録をせず活動する人が多いことに加え、マカオ政府が登録済みのジャンケットの数を公表していないことから、「不可視の存在」となっている。

また、ジャンケットの主な報酬はクライアントの世話料ではなく、クライアントに販売するチップの報奨金と賭け金総額のリベートである。さらに、流動する高額な資金の背後にマフィアも参与している[e.g. Leong 2002; Lo and Kwok 2017]。このように、ジャンケットは実質、高額ギャンブルの債権責任者として、クライアントと、マフィアを背景に持つVIPルームの間をつなぐミドルマンであり、債権の担保責任と回収の根底にあるのはそれぞれ二者間の信頼(trust)である[Wang and Zabielskis 2012: 137; Lo and Kwok 2017: 603]。

そもそも、ジャンケットの誕生背景や債権回収の困難などの特異な状況は、一国二制度⁵⁾という政治システムによって生みだされている。だが、ジャンケットビジネスに関する既存の研究では、マカオのゲーミング産業に対する影響や、規制の強化と監察体制の改善を提唱するものが多く、ジャンケット自体に焦点をあてたものは少ない。

したがって本稿では、ジャンケットの生の技法に焦点を当て、彼らがいかにして中国大陆とマカオの二つの社会システムを接合するミドルマンの役割を果たすのかに着目し、接合の中身である「信頼のギャンブル」について検討する⁶⁾。これを通して、マカオのジャンケットビジネスに関する研究における、不可視のジャンケットの生を補完したい。

3) 本稿での人間性とは、本稿で紹介するインフォーマントが用いた、中国語の「人性」に由来している。インフォーマントの発話文脈における「人性」という言葉は、種としての人類の共通する心理的性質(human nature)の意味ではなく、道徳的問題が関わる東洋的人性論(humanity)のことを指す。

4) マカオ第 6/2002 号行政法規第三章第一節第十七条による[DICJ 2021]。

5) 一国二制度(one country, two systems)とは、中華人民共和国の政治制度において、香港とマカオは大陸領域から分離した特別行政区という領域を設置し、主権国家の枠組みの中において一定の自治や国際参加を可能とする政治システムのことである。一国二制度が香港とマカオ返還後の 50 年間保証され、マカオは 2049 年まで継続する予定である。

6) 本稿のデータは、筆者が 2019 年 9 月から 2021 年 3 月にかけて、中国広東省とマカオでの延べ 1 年 3 ヶ月間行ったフィールドワークにおいて収集した。調査には主に広東語と中国標準語を用いた。また、多くのジャンケットはマフィアとつながりがあるが、そのやりとりを記述することはできない。本稿で取り上げるインフォーマントは、マフィアとつながりのないジャンケットである。

I ジャンケットに関する研究

「東洋のラスベガス」と呼ばれるマカオだが、そのカジノに関する研究には、主に法律面からカジノに関する法律整備や、心理学から病的ギャンブラーの増加防止など、カジノの健全な発展のために行われたものが多い。その中で、ゲーミングの議論に対する道徳的偏見(moral prejudice)とそれ自身の政治的慎重性(political sensitivity)により、ギャンブル自体に対する考察は依然として、主流の学術誌ではタブー視されている [Godinho 2012: 554]。ましてや、ギャンブルの研究を進めることは、人々から金を吸い上げるカジノへの手伝いと同一視され、一種の不道徳と見なされる [Lam 2017: 47]。本章では、数少ないジャンケットの研究の中で⁷⁾、マカオのジャンケットの特殊性に重点を置いて紹介したい。

ジャンケットに関する研究は2000年代当初、外資系カジノのマカオ進出が、従来のカジノ独占営業に与える影響について検討が行われた [e.g. Leong 2002]。後年には、マカオVIPルームの収益が急増し、大衆客フロア（以下、フロアと呼ぶ）の売上を遥かに凌駕する中、VIPルームとジャンケットの関連法律の整備や、リスク分散を促す議論が登場する [e.g. Siu 2007; McCartney 2015]。この動きは、VIPルームとジャンケットの衰退と言われる近年においても、依然として見られる [e.g. Guan / Liu and Lau 2020]。その要因として挙げられるのは、大金の流動を促進するジャンケットに対する管轄と規制についての議論には、「当地の文脈」(local contexts)を考慮する必要があるという点である [Siu Lam / Posner and Grondin 2015: 89]。そして、マカオのジャンケットシステムは、「非正式の制限」(informal constraints) [Siu 2007: 51] である「信頼」(trust)で機能している面についても注目しなければならない [Leong 2002: 92; Lo and Kwok 2017: 603]。

マカオにおける信頼を検討する前に、アメリカのジャンケットシステムの中核である「正式の規則と規制」(formal rules and regulations) [Siu Lam / Posner and Grondin 2015: 87] について少し確認する必要がある。例えば、ネバダにおけるジャンケットシステムは、様々な法律と監察のもとで、クライアントの「信用履歴」(credit history)に基づいて運行されている⁸⁾ [Siu Lam and Eadington 2009: 8-10]。一つ特記すべき点として、ゲーミング・クレジットに関する事項は全てカジノ側が主導しており、ジャンケットが参与していないことである。また、ネバダに次ぐアメリカ2番目のカジノシティである、アトランティックシティにおけるジャンケットは、ネバダと同様に、クライアントの「理論上の価値」(theoretical

7) その理由として、カジノ業界の機密性と規制当局の守秘義務によって、マカオのジャンケットの発展を記録している歴史資料がごく僅かしかないからである [Ho 2017: 721]。また、現代的なジャンケットの誕生は1972年であり、ジャンケットに関する研究は、本節で紹介するように2000年代から見られるようになった。

value) を演算し、最適のコミッションの還元率を算出する「Siu Lam / Posner and Grondin 2015: 64-65, 78」。また、ジャンケットのライセンス審査の厳格さはアメリカ屈指とされ、100 ページ以上の書類の提出が課される「Siu Lam / Posner and Grondin 2015: 81-82」。総括すると、アメリカのジャンケットシステムの大きな特徴として、「正式な信用に基づくゲーミング・クレジットの運行」が挙げられる。

一方、マカオのジャンケットシステムの最大の特徴は、「非正式な信頼に基づくゲーミング・クレジットの運行」である。マカオの VIP ルームとジャンケットシステムに関する事項は、II 章と III 章に詳述するが、ここでは信頼の中身と効果を紹介する。ワンとザビエルスキースは、マカオのジャンケットシステムにおける「友達」のネットワーク (networks of 'friends') における信頼の重要性を指摘した [Wang and Zabielskis 2012: 115]。この信頼の効果は絶大であり、ジャンケットが債権回収に問題が生じる際に、暴力という脅迫や法的措置に頼る必要がなく、クライアントとの間で築かれた信頼の関係性で解決できるとされる [Wang and Zabielskis 2012: 126]。ジャンケットはクライアントとの信頼を築くために、様々な手段を用いる。特にワンとザビエルスキースは、ジャンケットがクライアントへの贈与を繰り返し、その間にある社会関係資本 (social capital) が蓄積されていくプロセスを示した [Wang and Zabielskis 2012: 129-137]。この贈与の繰り返しと社会関係資本の蓄積は、中国文化とビジネスにおける重要な要素である、「関係 (中国語発音: グァンシー)」の形成と維持を促し⁹⁾、強固な「関係」が信頼の獲得につながる¹⁰⁾ [Wang and Zabielskis 2012: 132-133]。「関係」で生まれる信頼を重視する背景として、中国社会は「関係性を基盤とする構造」 (relationship-based structure)、という特徴を持っているからである [Wang and Zabielskis 2012: 130; Siu Lam / Posner and Grondin 2015: 89]。

このように、アメリカのジャンケットシステムにおける「信用への信念」 (believe in credit) に対して、マカオにおける最大の特徴は、非正式な「人間の約束」が重要視される

-
- 8) 具体的に、以下 4 点の特徴が挙げられる。(1) ジャンケットは、数値化されたクライアントの「理論上の価値」 (theoretical worth) に応じて、異なる報酬額が得られる、(2) ジャンケット活動をするには、ゲーミング・コントロール・ボードに登録することが必須であり、ライセンスが不可欠である、(3) クライアントがゲーミング・クレジットを作成する際に、カジノ側に申請を出し、信用情報がカジノ側と信用情報機関に調べられる、(4) ゲーミング債務を履行できない場合、カジノ側はクライアントの署名がある信用の手形 (クレジット・ノート) であるマーカー (marker) を用いて、債権回収会社に依頼できる。
- 9) 中国語の「関係」とは、日本語と同じように「つながり」を表す言葉だが、中国社会の文脈では、人間同士における一種の特定のつながりを意味し、一部の研究者では「排他主義的な紐帯 (particularistic tie)」と訳される [e.g. Jacobs 1979; Walder 1986]。中国社会の「関係」に関する議論は、以下を参照されたい [e.g. Fei 1992; Kipnis 1997; Luo and Yeh 2012]。
- 10) また、中国社会における個人間の関係性を円滑にする贈与行為は、『関係』の芸術 (the art of guanxi) という考察も見られる [Yang 1989: 35]。

「信頼への信念」(believe in trust)である【表 1】。前川の「翻訳＝読み換え」の視点を援用すれば、マカオのジャンケットシステムにおける「ミドルマン＝仲介者」としてのジャンケットは、大陸人のクライアントとの信頼と、マカオのVIPルームでの賭け金を、双方向的に読み換える「翻訳的作業」を行なっていると言えよう。さらに、このシステムはアメリカ式の「信用への信念」から度重なる影響を受けても、「信頼の構造」が粘り強く生き続ける。ジャンケットは、アメリカ式のシステムをマカオの文脈に適応させ、「書き換え」的実践的行為¹¹⁾〔前川 2012: 22〕に成功している。マカオのジャンケットシステムは、中国文化の信頼と資本主義のカジノの共存で生まれた、「特異な現象」(unique phenomenon)〔Wang and Zabielskis 2012: 137〕と見なされる。

表 1 アメリカとマカオのジャンケットシステムの比較

	アメリカ	マカオ
文化的背景	ゲームマシン好き 個人の数値化	テーブルゲーム好き かけがえのない他者
クライアント探し	シミュレーションによる 客の価値を演算	友達のネットワーク
ゲーミング・クレジット の運行	正式な書面の約束	非正式な人間同士の 口約束
信念 (believe) の由来	信用 (credit) 公的な法律／規制	信頼 (trust) 私的な「関係」

出典：筆者作成

また、近代的な「信用」装置と「信頼」の関係について、社会学者ラッツァラートは以下のように指摘した〔Lazzarato 2011 (2012): 94〕。「信用」装置は、行動の条件としての「信頼」を「支払い能力の確実性」に整形して不確定要因を除去し、統治の安全性を担保するかたわら、他者と自分自身と世界に対する不寛容に人々を陥れ、予見不可能な未来の分岐を無力化して、希望を奪う。これに対して、「信頼」は不確定な諸条件の中で行動するために、他者と自分自身と世界に対する寛容な力を行使する必要がある、分岐の可能性に直面する「創造行為」、また「希望」に通じてもいる。ラッツァラートは、不信に陥れられた人間を問題とし、他者と世界に対する信頼を取り戻し、未来への分岐を前に創造と希望を手放さない人間へと差し戻していくことを示唆している。しかしこの対置には、「信用＝不浄の資本主義」と「信頼＝無垢の人間」を対する二元的構図が控えていると指摘される〔大黒 2021: 368〕。上記のワンとザビエルスキースの考察において、信頼の関係性だけで債権回収問題を解決することはまさ

11) 前川によると「書き換え」は、「読み換え」という当該社会の認識論にもとづく文化受容による変容の位相から一歩進み、変容に意識的に関わる実践的行為の位相を示していると指摘している〔前川 2012: 22〕。

に、「信頼＝無垢の人間」像を作り上げていると思われる。本稿はこの「信頼＝無垢の人間」像を相対化する試みである。

では、「信頼＝無垢の人間像」を相対化するために、ワンとザビエルスキースの言うような信頼が強固なものであるという帰結ではなく、ジャンケットの実践的行為そのものが不確実性のものである可能性を探る。その手がかりとなるのは、アパデュライの儀礼的な交換における「根本的な不確実性」に関する考察である。アパデュライは、二つの集団の儀礼的な交換における「根本的な不確実性」が、(1) 相手がいるのだろうかという未知の問題、(2) 専門的知識などの技術的失敗、(3) 儀礼完結後のものの過剰または不足の事態という三つの部分で構成され、そのいずれも儀礼を失敗に終わらせてしまう可能性があるため、避けなければならないものであると指摘した [Appadurai 2016 (2020) : 121]。正式な約束を介在しない中国大陆の富裕層の客とマカオの VIP ルームの間における、ギャンブルという形を取る資金の流動を、二つの集団の儀礼的な交換と見なす際に、このような「根本的な不確実性」も横たわっていることが見られる。その相似点は結論部分で再度言及するが、ジャンケットはこの「根本的な不確実性」の解決を両者に期待される。ただし、その解決手段である信頼にも同様に、不確実性が潜んでいる。

このように、先行研究では西洋的文脈との比較が行われたが、マカオのジャンケット自体、「中国大陆／マカオ」という構図の両端を繋ぐ、一国二制度の産物である側面があまり注目されていない。また、ワンとザビエルスキースの、マカオのジャンケットシステムにおける信頼が強固なものであるという指摘は、一種の「無垢な理想状態」を作り出している。本稿では、信頼の破綻が多く見られる「不確実な信頼」の状況を紹介し、その理由が一国二制度の隙間にある可能性を探る。これによって、マカオのジャンケットに関する研究が継承してきた「規制強化」の議論を離れ、「信頼で成すジャンケット」像を相対化し、補完する考察を試みたい。

II マカオと VIP ルームの概要

1 地理と一国二制度

中国東南部にあるマカオは、香港と広州からそれぞれ所要時間 1 時間という、アクセスしやすい地域である。マカオ (2020 年末) は面積 32.9 平方キロメートル、総人口 68.31 万人も有する人口密度が高い都市である [DSEC 2021]。

マカオは中国で唯一カジノが合法化されている地域であり、現在営業中のカジノが 41 軒にも達している [DICJ 2021]「カジノ大都市」である。ゲーミング産業を経済の柱としているマカオは、2019 年時点で一人当たりの国内総生産 (GDP) は世界 3 位であり [Globalnote 2021], 日本や香港のほぼ 2 倍にもなっている [塩出 2019: 25] 裕福な地域である¹²⁾。

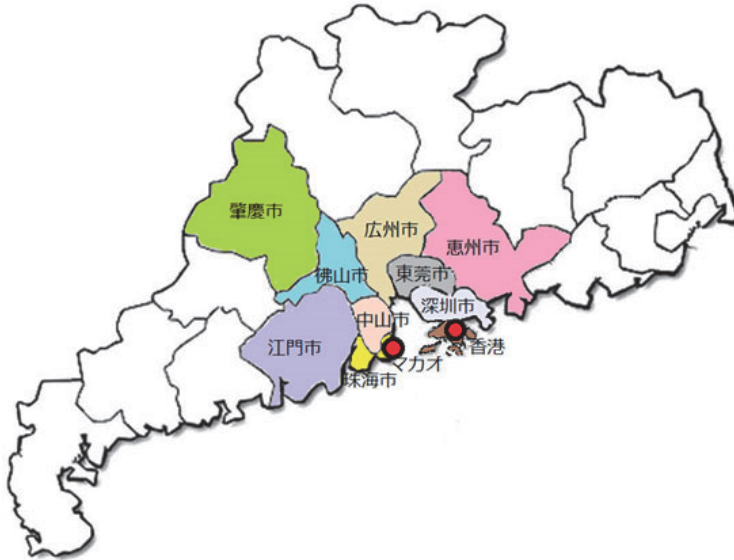


図1 マカオおよび本稿で取り上げるジャンケットの所在地

出典：JETRO [2018]

また、マカオは香港と同様に、一国二制度が適用される「特別行政区」である。珠海と地続きしているにもかかわらず、陸路ポートのボーダーゲートが設置されるマカオは、中国大陆の住民（以下、大陸人）にとって「外国ではないが、外国に渡航する時と似ている手続きが必要である」意味を持つ、両義的な地域である。大陸人はボーダーゲートを通過する際に、パスポートまたは通行証明書の提示が要求される。また、通常の在留資格である観光の最大滞在期間は1週間までとなっている¹³⁾。

マカオは一国二制度のもとで、中国大陆と様々な制度が異なるため、ミドルマンの重要性が極めて大きい。就労面¹⁴⁾や売春業¹⁵⁾においてのみならず、本稿で取り上げるジャンケットも、カジノにおける巨額な資金の流通を基盤としたマカオ社会を、ミドルマンとして支える役割を果たしている。

12) しかし、2020年コロナ禍による観光客の激減は、カジノ業に絶大な打撃を与えた。それに伴い、一人当たりの国内総生産も世界27位に転落した。

13) 同じ観光目的であっても、日本人は最大90日以内の滞在が可能であり、ビザ申請も不要である。

14) マカオは、「外労」と呼ばれるガストアルバイター（出稼ぎ外国人労働者）がなくては成り立たず、外労に依存している。2020年末時点で39.51万人の就業者の中で、外労は17.77万人もいる [DSEC 2021]。一国二制度により大陸人も「外国人」に分類され、実際、外労のうち11.22万人が大陸人である [DSAL 2021]。正規人材派遣会社の「外労定員」が限られているので、現在マカオにおける外労の多くは無登録の仲介者の紹介によるものである。

15) 売春婦の募集と管理をする「鶏頭」は、以下を参照されたい [劉 2021: 18-22]。

2 マカオの VIP ルームの特殊性

マカオのカジノにおける VIP ルームは、他の国家や地域と比べて独自性を持っている。まず、VIP ルームとは、大衆客を主な客層とした開放感のあるフロアと異なり、富裕層の客が利用するために用意された一室である。マカオでは、VIP ルームに、中国人ギャンブラーに人気のバカラのみ設けられるのがほとんどである¹⁶⁾。マカオのカジノ業において、VIP ルームがもたらす収益は 2012 年前後では全体の約 7 割と大きな割合を占めていたが、近年様々な原因¹⁷⁾によって下降傾向にある【図 2】。それでも、VIP ルームは依然として、重要な位置にあることは変わらない。マカオのカジノ業は、ジャンケットシステムにとっても強く依存している [McCartney 2015: 529]。

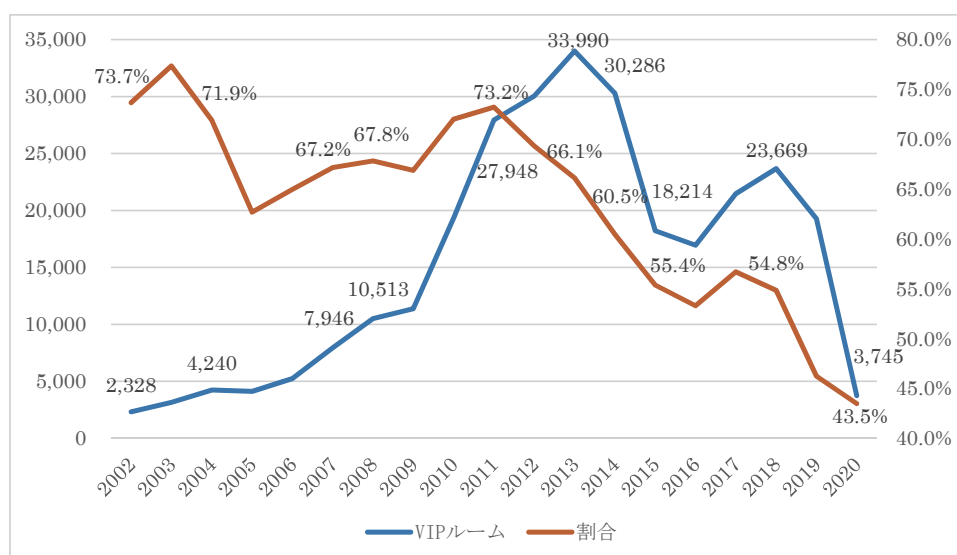


図 2 2002 年～2020 年 VIP ルーム収益とゲーミング収益に対する割合の推移
(単位：億日本円)

出典：DICJ [2021] のデータより筆者作成

そして、VIP ルームの開設は、カジノコンセッション¹⁸⁾ 取得会社による「経営委託」の形式をとる【図 3】。VIP ルーム経営の希望者は、法人と自然人を問わず、コンセッション会社

16) そのため、VIP ルームの名目上のギャンブルによる収益は、統計データにおける VIP バカラの粗利益に置き換えても良い。

17) 本稿では詳述する余裕がないが、2013 年から習近平政権による反腐敗運動や、2014 年のジャンケット巨額横領失踪事件による、VIP ルーム経営に対する不信感の増加、周辺国・地域のカジノ業の発展による富裕層の誘致などの理由が挙げられる。

18) カジノコンセッション (casino concession) とは、特定の地理的範囲と、カジノという事業範囲において、ゲーミング会社が政府と経営権契約を結ぶライセンスを指す。

と契約を締結し、一定のリベートまたは報酬を支払うことにより、VIP ルームを経営することが可能となる¹⁹⁾。審査が通ったVIP ルーム経営者は、「博彩中介人」（「中介人」と略す）と呼ばれる。

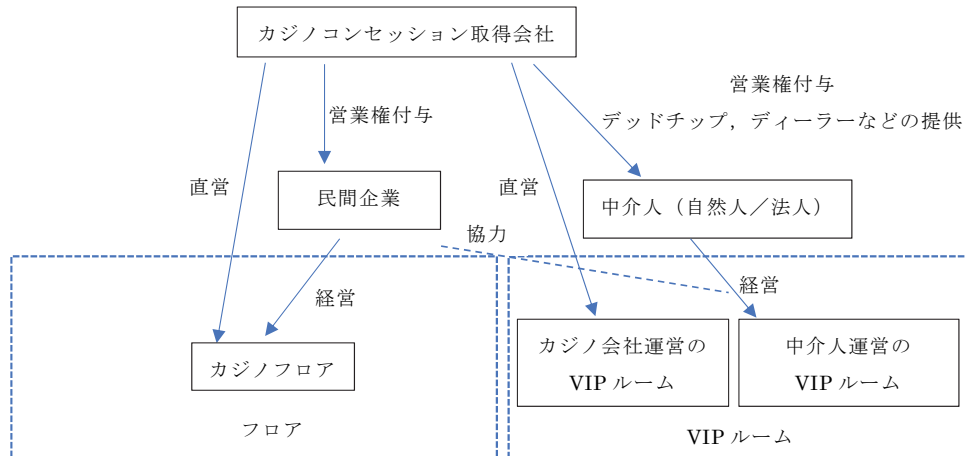


図3 マカオカジノの経営方式
出典：筆者作成

さらに、VIP ルームでギャンブルをするには、当ルーム専用のアカウントを開設する必要がある。アカウントの開設資格は、フロアのホステス、ジャンケット、「扒仔」²⁰⁾のいずれかの紹介が必須である。専用アカウントは預金を入れる形式ではなく、マーカー²¹⁾によってVIP客の元金が決まる。専用アカウントを持った上で、VIPルームと協定を結んだコンセッション取得会社のデッドチップ²²⁾をもらい、ギャンブルを始める。ギャンブルに勝った時でもデッドチップで配当され、勝敗の総額はVIPルームのホステスとジャンケットに共同記録され、それに基づいて後日清算される。

19) マカオ第 6/2002 号行政法規第一章第二条による [DICJ 2021]。

20) 扒仔（日本語発音：パーザイ）はジャンケットと異なり、定義づけが難しい存在である。主に、客に高利貸しの交渉を試みるローンネゴシエーター（loans negotiator）であり、扒仔の本業とされている。扒仔もVIPルームと深く関係しているが、ジャンケットは合法であるのに対して、扒仔は違法な存在である。

21) マーカー（marker）とは、クライアントが賭ける元金を一時的に借りる、ゲーミング・クレジットという書類である。クライアントとVIPルームの間で資金とチップの交換が行われるはずだが、マカオではマーカーの協議をする際に、クライアントの相手はVIPルーム側の人ではなく、ジャンケットである。

22) デッドチップ（dead chip、または nonnegotiable chip）とは、現金に換金不可のチップである。フロアでデッドチップを使う場合、勝った分が一般のチップで配当され、元金のデッドチップは手元に残るままである。[Siu Lam and Eadington 2009: 10; Siu Lam 2013: 321]。

表 2 アメリカとマカオの VIP ルームの相違点

	アメリカ	マカオ
VIP 客になる方法	会員カードのポイント貯めそれ以上の客は完全招待制	フロアのホステス、ジャンケットまたは扒仔の紹介が必須
ゲーム種類	ブラックジャック、ポーカーが主流	ほぼバカラのみ
テーブル・リミット	無上限	設置されている
経営方式	カジノ会社直営	直営または経営委託
最初のチップ獲得方法	大量の現金またはクレジットカード／マーカー	マーカー

出典：筆者作成

III ジャンケットの歴史と現在

1 ポルトガル領マカオの時代

中国大陸とマカオをギャンブルで繋ぐジャンケットの原型は、まだポルトガル領マカオであった 19 世紀に始まった。1849 年にポルトガル政府が、中国式ギャンブルを運営する「賭館」(gambling house)を合法化した[Godinho 2012: 554]。同時期に、マカオは「苦力貿易」(coolie trade)²³⁾の中心地であった[Meagher 2008]。中国大陸における人身売買者の犯罪グループは、マカオの賭館と連携し、ギャンブリングツアーという名目で大陸人をマカオに誘致していた。大陸人はギャンブルで負債を負った場合、苦力として海外へ密売された。

1930 年代日中戦争の戦時中、大陸人における大量の難民と移民をギャンブラーとして、マカオに引き入れる「進客」(introducing customer)が出現した[Ho 2017: 722]。ギャンブラーをマカオの賭館に誘致する点では、進客の仕事内容は現在のジャンケットと似ている。しかし、最初の進客は賭館側から報酬をもらうものの、その額は客の数と賭け金総額に基づかない[Wang and Eadington 2008: 241]。

1962 年、スタンレー・ホー²⁴⁾創立の STDM 社が政府からカジノコンセッションを入札し、中国式ギャンブルの賭館と異なる、西洋式カジノがマカオに導入された[Godinho 2012: 555; Ho 2017: 722]。当時の中国大陸は、大躍進や文化大革命の最中にあり、「賭博」という言葉自体が禁句となり、マカオへギャンブラーを誘致する人も一時途絶えた。1970 年、ホテル・リスボアが営業開始し、新しい西洋式カジノは多くの香港人観光客を惹きつけた。

23) 苦力 (coolie) とは、19 世紀から 20 世紀初頭にかけて、中国人・インド人を中心とするアジア系の移民または出稼ぎの労働者である。低賃金で過酷な労働を強いられる苦力の移民は、ブローカー結社により組織的に行われ、こうした労働力を売買する商行為は「苦力貿易」と呼ばれた。

24) スタンレー・ホー (Stanley Ho) は、1921 年生まれ 2020 年没の香港、マカオの実業家である。40 年間にわたってカジノ経営権を長年独占していた様態を持ち、「近代マカオの父」「賭王」(カジノ王)などと呼ばれる。

当時の STDM 社は、カジノの運営のみならず、マカオのインフラ整備や、香港とマカオ間の海上運輸に力を入れた。香港からの観光客は、STDM 所持のフェリー会社のチケットを購入し、マカオへの行き来が便利だった。フェリーチケットの収益を狙った「三合会」(triad)²⁵⁾ というマフィアは、チケットを買い占め、巨大な利益が生まれる転売を始めた [劉 2002: 407]。1972 年、カジノ独占営業の STDM 社は、マフィアのチケット転売がもたらす支障を解決するために、ギャンブラーの誘致とデッドチップの販売に方針転換の案を持ち出し、マフィアと協議した。方針転換を遂げたマフィアのメンバーは、現在ジャンケットの呼び名である「沓碼仔」(chip roller) を持つようになった [Ho 2017: 723]。

ジャンケットの出現は、VIP ルームの開設環境を促進した。1976 年、STDM 社はマカオ初の VIP ルームを開設した [Godinho 2012: 555]。そして発展を遂げ、1990 年代にはすでに大量の VIP ルームが存在していた。巨大化した VIP ルームの市場競争は、マフィア間のテリトリー争いに転じた。その最高潮は、1997 年に三合会傘下の「14K」と、マカオ現地のマフィアの「水房」の間で起きた、街頭における大きな衝突事件である [Leong 2002: 88-89; Lo and Kwok 2017: 591-593]。

2 ゲーミング自由化とジャンケットの法律整備

1999 年の中国返還に伴い、カジノ業において大きな変化が起きた。ジャンケットに影響を与えたのは、主にゲーミング自由化、VIP ルームとジャンケットに関する法律整備とジャンケットの合法化、という二つの改革が挙げられる。

ゲーミング自由化 (gaming liberalization) は、マカオ政府がカジノ市場の自由化を目指すため、2002 年にカジノコンセッションの国際入札を行ったことである。その結果、マカオのみならず、香港とアメリカの外国資本を含む合計 6 社にカジノコンセッションが付与された [増子 2016: 26]。これを境に、40 年間にわたる STDM 社によるカジノ営業権の独占が幕を閉じ、カジノ業における競争は激しくなった。VIP ルームの数が急増する中、ジャンケットはより高いリベートを求めて、様々な VIP ルーム経営者にアプローチすることができるようになり、選択肢の幅が以前より大きく広がった。

また、VIP ルームとジャンケットをより良く管理するため、制度の見直しとして、同じく 2002 年に法律整備が行われた [Wang 2014: 108]。主に、VIP ルーム経営代表者 (中介人) の登録は義務化され、ジャンケットも登録可能な正式な職業として認められるようになった。しかし、政府に登録したジャンケットの数は非常に少ない。登録した場合、ジャンケットは中介人と雇用関係を結び²⁶⁾、より高いリベートが得られる VIP ルームに、クライアントを紹介

25) 三合会 (triad, 日本語発音: サンハブウイ) は、香港をはじめ、世界中の華人社会にまで影響力を持つ犯罪組織の総称である。マカオにおける三合会の支部は、「14K」と呼ぶ。

介することが難しくなる。この柔軟性を保つために、登録を選択しないジャンケットが多い。他にも、以下のような理由が挙げられる。まず、大きな背景として、VIP ルームの富裕層の客の構成が大きく変わった。返還前、香港人の資本家が主な客層だったのに対し、2000 年代に入ると、中国大陆での急激な経済発展とともに、マカオでギャンブルする大陸人の資本家や官僚が急増した [Wang and Eadington 2008: 250]。マカオと香港出身のジャンケットは、クライアントの減少による報酬低下のため、登録によって生じる納税を避けたいと思っている。また、大陸人のジャンケットは、中国当局の厳しい監視と統制を回避するために、未登録のままでいる [Siu Lam 2013: 333]。

その後、マカオのカジノ業が急速な発展を遂げ、VIP ルームの収益増加と共に、中介人の数は劇的に増加し、2013 年にピークを迎えた。しかし 2013 年習近平政権発足による反腐敗運動や、VIP ルームへの信用の低下を招いた 2014 年の「黄山事件」と 2015 年の「多金事件」などにより²⁷⁾、現在まで VIP ルームの衰退を見せている。ジャンケットの数は不明だが、中介人の増減【図 4】とともに、大きな変化があったと推測できよう。

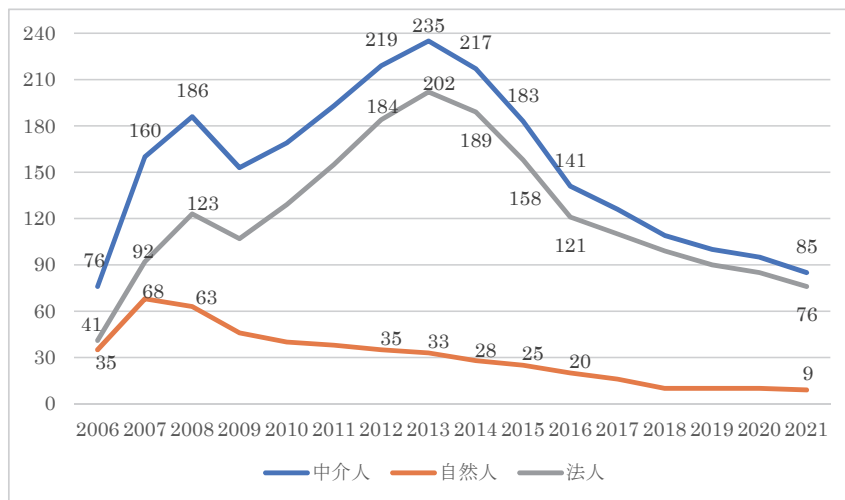


図 4 2006 年～2021 年（各年 1 月時点）
VIP ルーム経営者（中介人）とその内訳の推移
出典：DICJ [2021] のデータより筆者作成

2002 年以降、法律整備が進んだとはいえ、VIP ルームはマフィアとの関係性を断ち切ったわけではない。マフィアと企業家の連携が進み、かつての流血事件のような目に見える形でのテリトリー争いから、水面下の企業競争に変わった。同時に、マフィアの構造的欠陥

26) マカオ第 6/2002 号行政法規第三章第一節第十七条による [DICJ 2021]。

27) 二つの事件の詳細と DICJ による規制の強化について、以下を参照されたい [Ho 2018: 555-557]。

(structural deficiency)²⁸⁾により、ジャンケットの存在が必要とされている [Lo and Kwok 2017: 605]。このようにジャンケットは、VIP ルームとマフィアとの間であくまで協力関係にあり、比較的自由的な存在であると言える。

このように、ジャンケットは原型の誕生から現在までの歴史を通して、異なる社会制度を保ってきた中国大陆とマカオを繋ぎながら、制度の間に潜り抜けるミドルマンであると見られる。

3 巨額な報酬とその構成

ジャンケットの報酬は大まかに、(1) ティップ (tip)、(2) 正規のリベート、(3) 「机下の」リベート、(4) B 数という 4 種類に大別できる【図 5】。(1)、(2) は正当な収入である一方、(3)、(4) は違法所得である。本稿では、主に (2)、(3)、(4) を紹介する。

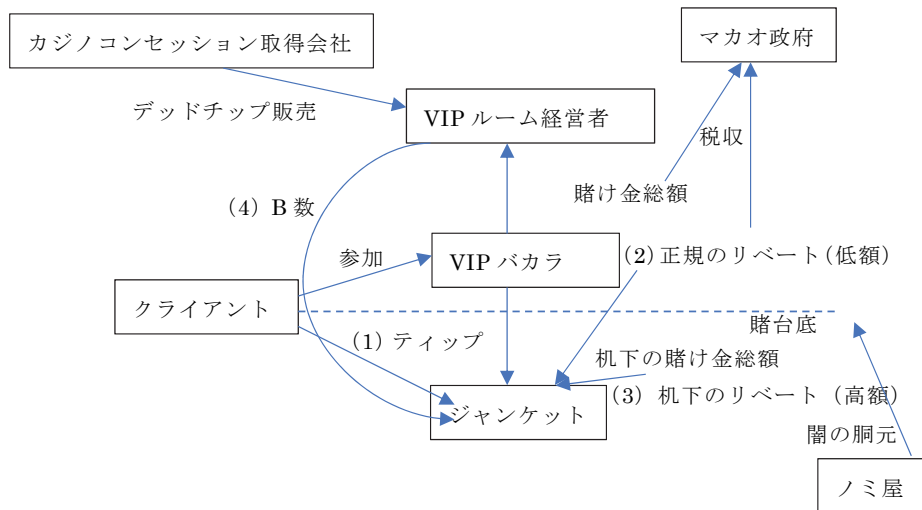


図 5 VIP ルームにおける金の流動とジャンケットの報酬構成
(2)、(3) は (4) と共存しない
出典：筆者作成

正規のリベートは、「碼佣」(chip commission)と呼ばれ、デッドチップに関わる報酬である。主に、デッドチップの販売額とVIP ルームでの賭け金総額の歩合報酬で構成される。前者はマーカーを作成する際に決まり、その歩合はわずか0.05%前後である。後者の歩合は、VIP ルー

28) 構造的欠陥 (structural deficiency) とは、マフィアの組織構造が流動的であり、犯罪を実行する者が、必ずしもマフィアの構成員なわけではないことである。共同の金稼ぎの目標を持つ個人たちは、臨時的、柔軟的な横のつながりを通して協力し、動的な操作環境 (dynamic operational environment) に対応する [Zhang and Chin 2003; Lo and Kwok 2017: 591]。

ムごとに異なるが、上限が 1.25%とマカオの法律で定められている [Ho 2017: 726; 2018: 551]。正規のリベートは、ゲーム記録が残るテーブル上で行われる監視可能のギャンブルのみに適用され、マカオ政府の課税の対象となっている。

一方、「机下の」リベートは、「賭台底」(テーブル下のギャンブル, *under-the-table betting*)²⁹⁾に生じるリベートの意味である³⁰⁾。机下のリベートの構成は正規のリベートと同じだが、歩合が高い。特に、賭け金総額の歩合は、法定の 1.25%をはるかに超え、2.0%から 2.2%までが相場と見られる³¹⁾ [鮑 2010]。「賭台底」における、ギャンブルの主体と資金の流動の詳細は、マカオ政府に把握されておらず、課税の対象にもなっていない³²⁾。

上記のリベートと共存しない、もう一つの報酬は B 数である。B 数とは、ジャンケットがリベートの代わりに、VIP ルーム側からもらう「株」のようなものである。客の勝敗による VIP ルームの損益の一部をジャンケットが肩代わりし、その割合は 35%から 42%までである [鮑 2010]。換言すれば、ジャンケットは単純な顧客紹介ではなく、胴元も兼ねるのである。

ジャンケットにとって、少額のティップと正規のリベートより、巨額の机下のリベートまたは B 数のほうが、よほど魅力的である。しかし、正規のリベートはマカオ政府によって保障される一方、机下のリベートと B 数の報酬を得るには、クライアントのマーカー金額と負けた総額を無事に回収することが必須条件である。ギャンブルが違法な中国大陆において、マーカーの合法性は認められない³³⁾。ジャンケットにとって、クライアントに対する債権回収は、最も苦心することである。

IV 信頼における「ギャンブル性」

本章では、ジャンケットの仕事において、クライアントと関連する部分を一通り紹介し、

29)「賭台底」は、テーブルリミットを超える手段として、テーブル上のゲーム結果を基準に、場外に 3 倍から 10 倍まで同時に行われるギャンブルのことである。この倍率は、VIP ルーム、ジャンケット、クライアントの三者間、事前の話し合いで決まる。

30)「賭台底」の主体は、テーブルリミット以上に賭けたいギャンブラー以外、マカオへの渡航制限がかけられる資本家や官僚も含まれる。この場合、ジャンケット経由で、電話やビデオ通話越しでベットする。

31)例えば、クライアントは「下の倍率」を 10 倍にした場合、テーブル上一回 10 万香港ドルのギャンブルが行われると同時に、場外に 100 万香港ドルのギャンブルも記録される。

32)マカオ政府は「賭台底」の存在自体を把握しているが、規制をかけていない [Lo and Kwok 2017: 601]。その理由として、「賭台底」は中国大陆のマネーロンダリングの手段であり、それに規制をかけたら、中国大陆の富裕層は海外のカジノへ流出する恐れがあるからである。テーブル上の「合法ギャンブル」における正当税収の減少を防ぐため、マカオ政府は「賭台底」に対して見て見ぬ振りをしていられると言われる。

33)また、「賭台底」と B 数は違法のため、ジャンケットシステムを紹介する文献においても、言及を避けることが多いと見られる。

中核の信頼に見られる「ギャンブル性」³⁴⁾を明示する。主に、(1) クライアント探しと維持、(2) ギャンブルにおける目標の不一致の調整、(3) マーカー清算時の債権回収、という三つの部分に分ける。ジャンケットの生についての記述を通し、ギャンブル性が生じる要因を探り、現在彼らが拠りどころとしている「不穏な信頼」の実態を示したい。

ジャンケットは営業形式によって、会社所属と単独営業に分かれる。本稿で取り上げるのは、その間にある、緩いつながりが見られるジャンケットグループ(以下、グループ)である。グループのメンバー全員は、マカオ政府に無登録の、統計上「観光客扱い」されるジャンケットである【表3】。

表3 本稿で取り上げるインフォーマント

ジャンケットグループのメンバー（一部非公開）			
名前	年齢	ジャンケット歴	担当地域
YT	50代	15年	仏山
XF	不明	5年	深圳
HW	40代	7年	東莞
YJ	40代	4年	広州
HD	30代	5年	東莞
LX	30代	非公開	珠海
JM	30代	3年	仏山
ZJ	20代	1年未満（HDの弟子）	東莞
クライアント			
WY	40代	HDのクライアント	東莞の工場主

出典：筆者フィールドノート

このグループは、2005年からジャンケットを始めた、「初代の大陸人ジャンケット」のYTを中心に結成された。メンバーは全員広東省出身の男性であり、入れ替わりが激しい。メンバーたちはそれぞれ各地で活動しており、珠海にLX名義の賃貸部屋があり、グループの会合やメンバーの素泊まりに使われる。

また、ジャンケットの「育成」は主に徒弟制であり、同じ地域のジャンケットがクライアントを受け継ぐことが多い。さらに、このグループはマフィアとの関連性がほぼなく、接待するクライアントはそれほどの大物ではない。

34) ここで言う「ギャンブル性」は、カジノゲームを通して金品を賭ける行為の性質、という意味だけではない。ギャンブルを仕事の対象とするジャンケットの生において、根底に横たわる不確実性が存在している。この根本的な不確実性をギャンブルと関連づけ、「ギャンブル性」と筆者は呼びたい。

1 前提となるクライアントの存在

ジャンケットにとって、富裕層のクライアントを見つけることは、最優先事項である。広い地域で、マカオのVIPルームに興味あるクライアントを見つけ出すのは、容易ではない。最も狙いやすいターゲットは、工場主などの資本家と官僚である。もっとも中国において、ギャンブルは商談や社交の場で使われる親睦関係を深める手段であり [Steinmüller 2011]、裕福な資本家や官僚に親しまれている。特に、グループが活動している地域は、広東省の中でも生産工場が比較的多い場所であり、ターゲットに近づきやすい。

YTはクライアントの探し方をめぐり、以前と現在の違いについて筆者に語ってくれた。ジャンケットを始めた当時、大陸の富裕層が増え始めた頃に、マカオのカジノに詳しい人がそれほどいなかった。そのため、ジャンケットは、旅行会社の代理人を装い、当地の工場主に無料のマカオ旅行の誘いを持ち出す。ターゲットが誘いに乗ったら、ジャンケットは必要な交通手段、宿泊施設を全て手配し、食事も含めてすべての費用を自腹で出す。

マカオ到着後、カジノのフロアへ直行し、ターゲットにバカラを体験させる。しばらくギャンブルを継続させたら、フロアの喧騒を避け、快適なVIPルームに行くように誘いかける。それに応じてマーカーの作成に進む場合、ターゲットがクライアントに変わり、デッドチップを貸し、VIPルームでのギャンブルが始まる。カジノ特有の刺激感を覚えたターゲットは大体応じるが、それでもジャンケットは、ターゲットの同意に賭けるギャンブルをしていた感覚だった、とYTは述べた [2020 年 8 月 21 日]。

しかし、カジノ業の急速発展につれ、マカオに訪れる大陸人富裕層も急増し、彼らには旅行会社の代理人偽装という手口が通用しなくなった。代わりに、ジャンケット経由でなければ、VIPルームで賭けられないため、ジャンケットは一定数のクライアントと定期的に連絡を取るという手段で信頼を深めるようになった。だが、クライアントを維持する戦略は、特に有効な方法がないとHDは述べた。互いに金銭目的で利用し合うことを、ジャンケットもクライアントも分かりきっているからである [2020 年 9 月 26 日]。YTは、今まで何人ものクライアントが、マカオの同行を二、三回くらいしたにもかかわらず、突然消息を絶った経験を持つという。より信頼が置けるジャンケットとVIPルームを見つけたのではないかと彼は推測している [2020 年 8 月 21 日]。

2020 年 8 月 26 日から、広東省からマカオへの旅行ビザの発行が再開され³⁵⁾、グループもクライアント探しに取り組んだ。2020 年 1 月下旬から新型コロナウイルスの感染拡大で、経営難に陥るクライアントが多く、ギャンブルの誘いに応じてくれないことに、ジャンケットたちは頭を抱えていた³⁶⁾。とりわけ、ジャンケットを本業とするメンバーは、2020 年 1 月下

35) 2020 年 1 月 28 日から、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中国大陸からマカオへの旅行ビザが発行中止となっていた。

旬以来、収入が一向に入ってこない。その中で、HD は国慶節の大型連休（10月1日～7日）の前に、クライアントのWYを見つけた。WYは日本への輸出貿易をしている工場主であり、HDはクライアントとの交流を盛り上げるために、筆者を同行に誘ってくれた。

【事例Ⅰ】出発前の打ち合わせ [2020年9月26日]

WYは東莞市に、小道具や雑貨の製造工場を有している工場主である。当初は国内向けの安価のものを生産していたが、製造機械を改良し、より高品質の商品を製造することができるようになり、輸出品の生産に方向転換したという。新型コロナウイルスによって貨物輸送の制限がかかり、工場全体の収益が落ちているが、ギャンブル好きのWYは個人旅行再開の機会を逃さず、HDの誘いにすぐ応じた。

9月26日、HDと筆者はWYの工場に訪れる。WYの警戒心を解くために、HDは筆者のことを、ZJの次に新しくグループに入った、日本語ができる徒弟であると言った。WYは最近、北関東にある雑貨製造会社と協力し、取引先の金型に合わせてスマホホルディングを製造している、と話してくれた。簡単な挨拶の後、HDとWYはVIPルームについて、本題に入った。

「いつも通りの二泊三日でいいよな。マーカーはどうする」とHDが尋ね、「最近全体的に売上が落ち気味で、3で行こう。下も3で」とWYは答えた。「3なら、いつもより少ないね。100万ちょいって、初めてだよ」とHDが驚きの様子を見せた。そこで筆者は、元金30万香港ドル³⁷⁾と、テーブル下の3倍レートを合わせ、合計120万香港ドルという、フロアでほぼ見かけない金額であることに気づいた。

帰り道にHDは、「ジャンケットって、焦ってはいけな。1ヶ月に数人のクライアントがカジノに行きたい時期もあれば、数ヶ月にわたって誰一人応じてくれない時もある」と、ジャンケットの不安定性を補足した。

大型連休を控えるとはいえ、全てのジャンケットがクライアントを見つけられるわけではない。同じく東莞市で活動しているHWは、繋がっていた全てのクライアントに断られたようである。逆に、【事例Ⅰ】のように、クライアント自身がギャンブル欲求に駆られる場合、ジャンケットの誘いに快く乗り、予定を円滑に組むこともある。ここまで、HDとWYの打ち合わせは全て口頭で完成され、一枚の書類も見られない。書類を使うと、かえってクライアントに、不信感と不快感を与えてしまうからである、とHDは説明した [2020年9月26日]。

ジャンケットは、サービス対象であるクライアントの不在という、仕事内容の前提条件に

36) VIPルームに行くように口説くことは、負けを促すかのように聞こえ、クライアントの反感を買ってしまう。そのため、普段ジャンケットたちは、クライアントからの連絡を待つことが多い。

37) 1香港ドルは、14.64日本円である（2021年11月12日時点）。

において、根本的な不確実性に直面している。だが、この状況を改善する方法をジャンケットは持ち合わせていない。ジャンケットはただ、クライアントがギャンブルしたい、ということにギャンブルしている。

2 ギャンブルにおける目標の不一致の調整

VIP ルームに訪れる口頭契約を交わした後、ジャンケットは VIP ルーム側に連絡を入れる。次に、クライアントをもてなす準備として、様々な手配を始める。交通手段や宿泊、グルメなどの予約といった「表業務」はもちろん、人民元から香港ドルへの有利なレートでの両替と、売春婦の手配のような「裏業務」も用意周到に行う。マーカー金額に応じて、サービス水準が異なるが、クライアントがこれらのサービスに対して料金を支払うことはない。

準備が整ったら、クライアントのマカオ観光に臨む。ジャンケットとクライアントは、観光資格を持ってマカオに滞在するが、「観光客らしく」観光スポットを回らない。例えば WY は、マカオに十数回以上訪れたが、いまだに聖ポール天主堂跡に行ったことがないという。

【事例 II】VIP ルームでのギャンブル [2020 年 10 月 2 日～4 日]

マカオに入ったら、指定の VIP ルームに直行した。この VIP ルームの規模が小さく、テーブルの数は 5 卓未満である。「3・3 で」と WY がマーカーにサインし、HD はマーカーを手にとって、VIP ルームのキャッシャーでデッドチップに換える。30 万香港ドルのデッドチップが渡され、大金が動く VIP ルームのパカラギャンブルは始まる。WY は VIP ルームの特権である「飛牌」³⁸⁾を何度も使用し、ゲームの流れが来るまで、チップをテーブルに置かない賭け方を貫いている。

二泊三日の後、WY のギャンブル最終収支は、「表のギャンブル」で 13 万香港ドル前後負けた。「これほどギャンブル好きな人なのに、いつもほどよく負けるところで切り上げるから、慎重派 WY は非常に稼ぎにくい」と HD は冗談半分で筆者に言ってくれた。

HD はこの二泊三日のギャンブル同行で、7 万香港ドルくらいのリベートが得られるという。様々な出費を引いても、純利益は 4 万香港ドル前後残るようである。三日間だけで、平均月給 2 万香港ドルのディーラーより、倍ほどの収入がもらえると筆者は驚嘆したが、半年以上無収入でやっとの 4 万より、毎月安定して 2 万が入った方が羨ましいと HD は反論した。

また、ジャンケットのリベートが、クライアントの「ギャンブルスタイル」に大きくかかっている、と HD は補足した。「一番の理想状態は、クライアントが勝ちと負けを交互に繰り返し、

38)「飛牌」とは、カジノのトランプゲームにおいて、プレイヤーが賭けない以外、通常通りのゲームプロセスを行うことである。フロアでは、「飛牌」が 3 回まで許可される一方、VIP ルームでは無制限である。

ギャンブル時間が長くなること。大勝による満足で切り上げる人と、全部負けてすぐ帰る人はもちろん、WYのようにギャンブルをなかなか進めない人も厄介だ」とHDは小声で言った。

ジャンケットの利益は、全てクライアントの賭け金総額にかかっている。ギャンブル自体の不確実性は言うまでもなく、クライアントのギャンブルスタイルも不確実である。この二つの不確実性は自明のものであり、本稿では詳述を避ける。重要なのは、同じギャンブルに対して、ジャンケットとクライアントが持つ目標の不一致である。

クライアントにとって、ギャンブルの目標はもちろん勝つことである。しかし、ジャンケットには、報酬の種類によってギャンブルの目標が異なる。その差異によって、ジャンケットはクライアントとの関係を損なう恐れがある。特に、リベートとB数の選択について、HDは以下のように述べた。

多くのジャンケットはB数よりリベートの方が好きだと思う。確かに単純計算すれば、リベートよりB数の方が儲かることは多い。でもリベートはギャンブル上、ほぼノーリスクなのに、B数はジャンケットまで大金を失ってしまう恐れがある。

それだけではなく、ジャンケットは付き添う役目を持っているから、クライアントといる時のメンタリティもとても大事だと思う。昔一時期、B数をやっていて、クライアントと食事をする時でさえ、「のんびり食べる余裕があるくらいなら、早くテーブルに座って負けろ」とばかり考えていた。クライアントがあつての商売なのに、いかにクライアントを負けさせるかしか考えておらず、大金に惑わされる悪魔となった[2020年9月20日]。

クライアントと同じ戦線に立つために、ジャンケットは相反する目標を持つB数より、クライアントの勝利が望ましいリベートを選択することが多い。VIPルームの成長期にはリベートとB数それぞれ選ぶジャンケットが同数程度いたが、全盛期から現在に至るまでB数が徐々に減少し、心からクライアントの応援をするために、リベートを選ぶジャンケットが主流となっている、とベテランのYTも述べた[2020年8月21日]。

ジャンケットはマカオでクライアントに同行する中で、信賴を促進するためにさまざまな手段を講じている。その中で、ジャンケットの自主的選択可能な部分として、ギャンブルにおける目標の不一致の調整が挙げられる。クライアントのギャンブルスタイルを左右できない以上、ジャンケットによるこの調整は、クライアントからの信賴を促進する、ささやかな手段である。

3 債権回収における無力さ

VIP ルームでのギャンブルが終わり、クライアントのギャンブル結果を清算することは、ジャンケットの仕事において最も重要な一環である。クライアントが勝った場合、マカオ政府に登録している VIP ルームの経営側が財力を持っているため、勝利金の滞納をめぐるトラブルは、ほとんど見られない。本稿で紹介するのは、クライアントが負けた場合の、ジャンケットの債権回収における「無力さ」である。

ジャンケットが債権回収で直面する困難は、主にクライアントとの間による、非正式、非書面の合意に由来するものである。特に、マーカをめぐって、(1) 大概な審査過程、(2) 無担保形式、(3) 不完全な法的効力、という三つの問題点が挙げられる。

まず、資産の試算などの不徹底さの問題である。資本家をクライアントにする際に、マフィアを背景に持つジャンケットなら、「闇の手段」を通じて資本家の総資産を下調べすることができる。しかし、マフィアを背景に持たないジャンケットは、資本家の通帳や工場または会社の規模などから、大まかに見積もることしかできない。そこで、ジャンケットが頼れるものは、クライアントへの信頼である。

次に、マーカ作成時における無担保形式の問題である。高利貸しの「扒仔」は、借金を作る客から、パスポートまたは通行証明書を担保に取ることが多い。しかし、ジャンケットの場合、クライアントからの信頼を損なわないように、何一つ担保に取らない。最大の担保物は、クライアントへの無条件の信頼である。また、【事例 II】のように、マーカに署名する際に、VIP ルーム側はクライアントではなくジャンケットと交渉している。まして、負けた金額を支払えない場合でも、VIP ルーム側がその借金を回収する対象はクライアントではなく、ジャンケットである。

そして、マーカの法的効力は一国二制度に分断されているという問題である。マーカとデッドチップは、ゲーミング自由化以前のマフィアの高利貸しではなく、正式な「ゲーミング・クレジット」として、2004 年に合法化されるようになった [Siu Lam 2013: 323-324]。マーカによる借金の長期未返済は、マカオの裁判所において民事訴訟として受理可能である。しかし、マカオのカジノで生じる「ゲーミング債務」は、中国大陸では認められない [Ho 2017: 727]。マカオでは法的効力を持つマーカは、中国大陸に渡ると「ただの紙」となってしまう。

もともと、マーカの清算はマカオで行われない理由として、以下の 2 点が挙げられる。一つ目は、12 万パタカ³⁹⁾以上の大量の現金の持ち込みには申告が必要となるからである [MCS 2021]。二つ目は、中国大陸の銀行口座からの引き落とし金額の上限額が一日 1 万人民币と

39) パタカは、マカオの通貨である。1 パタカは、14.25 日本円である (2021 年 11 月 4 日時点)。

マカオ金融管理局によって設けられている [Ho 2017: 728]。これら 2 点の理由も一国二制度の分断によるものである。

したがって、マカオ VIP ルームでの高額ギャンブル清算は、大陸人同士のジャンケットとクライアントの間で、中国大陆で行われることになる。不明な支払い能力、無担保のクレジット、法的保障がない紙切れなどによって、クライアントの故意の不払い、滞納、逃走が多発している。ジャンケットの取り立て手段は、クライアントが良心を持って返済してくれることを、ただ信じるのみである⁴⁰⁾。マーカ―清算時に滞納したクライアントについて、YT と JM は以下のように述べた。

【事例 III】人間性に賭ける [2020 年 11 月 27 日]

JM は、マーカ―清算で 1 ヶ月返済もなく連絡も取れないクライアントのことについて、YT に相談する。YT は、ジャンケットに成す術はなく、気長に待つしかないと言明した。「工場や住まいに赤いペンキを塗ったり、待ち伏せしたりしないですか」と、筆者は尋ねた。YT は大笑いして、次のように語り出した。

今はマフィアでさえ、そんな目立つことをしない。赤いペンキを塗ったら、こっちが捕まってしまうよ。昔、うちにいた一人のジャンケットは、クライアントの工場の壁に赤いペンキを塗った。すぐ警備員に通報されて、1 週間くらい拘束されてしまった。その後も、クライアントからお金を取り返せないまま、VIP ルームへの借金を負って、ジャンケットをやめた。〈中略〉もう一人は、クライアントの家まで押しかけたんだけど、机の上に大量の現金の他に、銃も置いてあった。恐怖を感じた彼は金も取らずにそのまま逃げた。マーカ―清算の取り立てって、命も危険に晒されるくらいだよ。〈中略〉それに、10 年くらい前かな、600 万の負債が残ったまま、クライアントに逃げられたジャンケットもいた。あの人は大変でね、全財産でも足りないから、あちこちで借金を作った。それでも 600 万集められなくて、普通に働いて、少しずつ返済すると聞いた。VIP ルームの信頼も失ったし、ジャンケットを続けられなかったね。今はもう、全額返済したのかな。

YT はさらに話を続けた。「マーカ―が大陸で認められない問題は、昔からずっと言われてきたけど、十数年経っても法律の改善とか全く見られない。〈中略〉所詮悪名高いギャンブルだし、汚い仕事をしているジャンケットの権利なんて、保障されるわけもない。無敵状態の資本家を作り出し、誰が得するだろうか」

40) 補足として、WY は东莞に戻った 1 週間後、HD に負けた分の全額を端数まで正確な金額で返済した。

HD は WY のような儲けは少ないが、堅実なクライアントの方が気に入るという [2020 年 10 月 11 日]。

JM は自分の経歴を交えながら深く頷いた。「昔、長年の付き合いがあるクライアントは、8 回も VIP ルームで賭けたにもかかわらず、マーカー清算で滞納したことが 1 回もない。でも、9 回目の時は 70 万のマーカーが未納のまま、連絡が取れなくなった。家まで行ったけど、もう引越した後の抜け殻だった。〈中略〉前に同業者から聞いた言葉だけど、『クライアントはテーブル上で、バカラに賭けるけど、我々ジャンケットはテーブル外で、人間性に賭けるのだ』、腑に落ちるね」と、JM は悟った様子だった。「それは名言だね。信頼なんて、絵空事に過ぎない」と、YT は猛烈に同意した。

YT と JM の語りには、クライアント、ジャンケット、VIP ルームという三者関係の中で、ジャンケットの無力さが伺われる。現在の法的環境では、ジャンケットは、クライアントの「良心」に債権回収の全てがかかっているという大きな問題を抱えている。この問題は、ゲーミング・クレジット合法化以来、存在し続けてきたが、いまだに解決されていない。

中国大陸とマカオの間に、一国二制度の分断による「翻訳不可」の法律と資金の流動を「翻訳＝接合」するために誕生したジャンケットは、「翻訳可能」の信頼に縛られる。文化的背景をある程度共有する、中国大陸とマカオの間にいるジャンケットは、信頼にすぎり、クライアントとの信頼を VIP ループでの賭け金に「翻訳」してきた。しかし【事例 III】で見られるように、信用に取って代わる信頼は、巨額な資金の前にうまく機能していない。強固な信頼が形成されたとジャンケットは思い込んでも、容易く裏切られる。それでも、ジャンケットは【事例 I】と【事例 II】のように、様々な手段で信頼を強めることを第一に考えている。ジャンケットは、中国大陸の資本家とマカオの VIP ルームの間における、巨額な資金の流動に炙りだされる「信頼の犠牲者」である、と指摘できよう。

お わ り に

本稿では、先行研究が提起した、マカオの「信頼で成すジャンケット」像の相対化と補完を試みた。ここまでジャンケットの仕事における「翻訳的作業」の中で、クライアントとの信頼に翻弄される姿を明らかにした。最後に、このうまく機能しない信頼が、どのような「ギャンブル性＝不確実性」を持つのかをまとめる。

ジャンケットの生では、不確実性が根底に横たわっている。主に、a. クライアントを獲得することがむずかしいこと、b. クライアントの賭け方の多様性、c. クライアントの債務滞納の可能性という 3 点が挙げられる。これら 3 点の不確実性は I 章で紹介した、人類学における集団間の儀礼的な交換の、「根本的な不確実性を上演する」作業 [Appadurai 2016 (2020) : 120-123] との間に相似点が見られる。同時に、ジャンケットはこれらの不確実性に対し、a.

親密関係の強化, b. リベートと B 数の取捨選択, c. 債務返済を催促せず気長に待つといういずれも「信頼への信念」による対処法を取る。ジャンケットは、これらの対処法にある行為遂行性を通して、「信頼への信念」が中核である、マカオのジャンケットシステムにある不確実性を上演しているとも言えよう。

しかし、「信頼への信念」は常時うまく機能しているとは言えない。その解決法として、先行研究では「法律整備と規制強化」という、「信用の強化」が繰り返し言及されてきた。ただし、中国大陆とマカオの間にある社会体制の違いを背景に、一国二制度によって架け橋が作られてきたものの、ギャンブルの事項に関わる法律は、依然として「翻訳不可」の部分が残ってしまう。中国大陆とマカオの間に巨額な資金の流動というカジノ資本を「翻訳＝読み換え」するミドルマンとしてのジャンケットは、マカオの VIP ルーム開設当初から現在に至るまで、「翻訳する」役割を果たしてきた中で、ジャンケットは彼らにとっての「翻訳不可」な法律ではなく「翻訳可能」な信頼にすがってきた。

だが現在、ジャンケットは実際、法律も信頼も当てにならないと思っている。「翻訳不可」の法律は言うまでもなく、信頼でさえもはや足枷となっている。すなわち、左は信頼を口実にマーカーを返済しないクライアントへの焦燥、右は信頼を失わないように VIP ルーム側への立て替えで被る経済的損失、である。このようにして、ジャンケットは「信頼の犠牲者」になってしまう。ジャンケットは、アメリカとマカオの間の「書き換え」に成功している一方、一国二制度における中国大陆とマカオの間の「読み換え」の成功にまだほど遠いとも言えよう。

彼らにとっての「翻訳不可」である法律の問題と「信頼の不確実性」の問題を打開する策をジャンケットはまだ持ち合わせていない⁴¹⁾。彼らにできるのはただ、「信頼への信念」ではなく、「人間性に賭ける」、つまり「信頼のギャンブル」である。クライアントの信頼強化に最低限の効果を期待し、その人間性に「良心が残る」ことに賭けるのが、ジャンケットの現状である。当然、ジャンケットは現状を肯定せず、一国二制度が残り 30 年弱の間継続する以上、コンセッションの再入札による、VIP ルーム制度や関連法律の見直しの可能性にひたすら望みを託すのである。また、クライアントの「人間性のギャンブル」にかかっているジャンケットとしての生そのものが、創造と破壊という両極の天秤に揺れている状態は、人間経済 (human economies)⁴²⁾ [Graeber 2011 (2016)] とどのような関係性を持つのかは、将来の研究課題としたい。

マカオのジャンケットの事例が示したのは、一国二制度で生まれる「特殊な」異なる社会

41) もちろん、マフィアとつながるジャンケットは、マフィアによる暴力の実行または威嚇を持って、債権回収が捗ることも多い。しかし本稿で取り上げるジャンケットは、マフィアとのつながりがなく、ここではマフィア絡みの打開策が考慮されないとする。

42) 人間経済 (human economies) とは、「経済システムの主要な関心が、富の蓄積ではなく、人間存在の創造と破壊、再編成である」[Graeber 2011 (2016) : 199] 社会を指す。

の間で、モノを介せず巨額な資金を繋ぐミドルマンが依拠する信頼の限界である。本稿は、マカオのジャンケットシステムの核心である信頼を、常時機能する「無垢な理想状態」に還元することなく、不確実な側面がある「ギャンブル性」を持った存在として解釈する試みである。

謝 辞

本稿の執筆にあたり、現地調査ではインフォーマントの方々に多大なご協力をいただいた。また、執筆時には、石井美保先生（京都大学）および所属先の院生の皆さまにご助言をいただいた。さらに、匿名の査読者 2 名の先生から貴重なご意見とご指摘をいただいた。ここに記して感謝を申し上げたい。

参 考 文 献

〔日本語文献〕

Appadurai, A. (中川理・中空萌 訳)

2016 (2020) *Banking on Words: The Failure of Language in the Age of Derivative Finance*, Chicago: University of Chicago Press. 『不確実性の人類学——デリバティブ金融時代の言語の失敗』東京：以文社.

伊藤精男

2010 「人事コンサルティングにおける理性と感性——」『現場エスノグラフィー』の可能性
『日本感性工学会論文誌』9(4): 573-581.

Graeber, D.

2011 (2016) *Debt: The First 5,000 Years*, New York: Melville House. 『負債論——貨幣と暴力の 5000 年』(酒井隆史 監訳, 高祖岩三郎・佐々木夏子 訳) 東京：以文社.

塩出浩和

2019 「多様性に向かうマカオ」『華南研究』5: 25-41.

曾士才

2001 「中国における民族観光の創出——貴州省の事例から」『民族学研究』66(1): 87-105.

大黒弘慈

2021 「負債・人間・贈与——負債経済論とマルクス経済学」『社会システム研究』24: 363-398.

西崎伸子

2017 「エチオピア西南部における民族文化観光の展開——新規参入のアクターに着目して」
『アフリカ研究』 92: 43-54.

前川啓治

2000 『開発の人類学——文化接合から翻訳的適応へ』 東京：新曜社.

前川啓治（編）

2012 『カルチュラル・インターフェースの人類学——「読み換え」から「書き換え」の実践へ』
東京：新曜社.

増子保志

2016 「マカオカジノ産業における構造変化——転換点としての対外開放」『国際情報研究』
13(1): 26-36.

Lazzarato, M.

2011 (2012) *La Fabrique de l'homme endetté: Essai sur la condition néolibérale*,
Oegstgeest: Amsterdam Publishers. 『「借金人間」製造工場——“負債”の政治経済学』
(杉村昌昭訳) 東京：作品社.

劉振業

2021 「誘惑と厄祓いの身体——マカオのカジノの内外における『性的』女性をめぐる」『年
報人類学研究』 12: 1-29.

[英語文献]

Fei, X.

1992 *From the Soil: The foundations of Chinese Society*, Berkley: University of
California Press.

Godinho, J.

2012 A History of Games of Chance in Macau: Part I-Introduction, *Gaming Law Review
and Economics* 16(10): 552-556.

Guan, J. / M. Liu and Y. Lau

2020 Junket Operation: Macao's Growing Pains or Stimulants? *Journal of Gambling
Business & Economics* 13(1): 23-42.

Ho, H. W.

2017 The Junkets in Macau Casinos: Evolution and Regulation, *Gaming Law Review*
21(10): 721-729.

2018 Gaming Promoters: The Junket Operations in Macau Casinos, *Gaming Law
Review* 22(9): 549-558.

Jacobs, B. J.

- 1979 A Preliminary Model of Particularistic Ties in Chinese Political Alliances: Kan-ch'ing and Kuan-hsi in a Rural Taiwanese Township, *The China Quarterly* 78: 237-273.

Kipnis, A. B.

- 1997 *Producing Guanxi: Sentiment, Self, and Subculture in a North China Village*, Durham and London: Duke University Press.

Lam, D.

- 2017 *Chopsticks and Gambling*, London: Routledge.

Leong, A. V. M.

- 2002 The “Bate-Ficha” Business and Triads in Macau Casinos, *Law and Justice Journal* 2(1): 83-97.

Liu, M. T. / T. T. G. Chang / E. H. N. Loi and A. C. H. Chan

- 2015 Macau Gambling Industry: Current Challenges and Opportunities Next Decade, *Asia Pacific Journal of Marketing and Logistics* 27(3): 499-512.

Lo, T. W. and S. I. Kwok

- 2017 Triad Organized Crime in Macau Casinos: Extra-legal Governance and Entrepreneurship, *The British Journal of Criminology* 57(3): 589-607.

Luo, J. and K. Yeh

- 2012 Neither Collectivism Nor Individualism: Trust in Chinese Guanxi Circles, *Journal of Trust Research* 2(1): 53-70.

McCartney, G.

- 2015 When the Eggs in One Basket All Cracked: Addressing the Downturn in Macau's Casino and VIP Junket System, *Gaming Law Review and Economics* 19(7): 527-537.

Meagher, A. J.

- 2008 *The Coolie Trade: The Traffic in Chinese Laborers to Latin America 1847-1874*, Bloomington, IN: Xlibris Corporation.

Nagatomo, J.

- 2016 Cultural Practices of Traditional Performing Arts by Lifestyle Migrants in Ama-cho, Oki Islands, Japan: Identity Politics and Cultural Practices of ITurn Migrants as “Middlemen”, *Journal of international studies* 5(1): 5-17.

Salazar, N. B.

- 2012 Community-based Cultural Tourism: Issues, Threats and Opportunities, *Journal of Sustainable Tourism* 20(1): 9-22.
- Siu, R. C. S.
- 2007 Formal Rules, Informal Constraints, and Industrial Evolution-The Case of the Junket Operator Regulation and The Transition of Macao's Casino Business, *UNLV Gaming Research & Review Journal* 11(2): 49-62.
- Siu Lam, C. and W. R. Eadington
- 2009 Lessons from the Nevada Model on Macao's Junket Operations, *Gaming Law Review and Economics* 13(1): 6-22.
- Siu Lam, C.
- 2013 Changes in the Junket Business in Macao After Gaming Liberalization, *International Gambling Studies* 13(3): 319-337.
- Siu Lam, C. / I. Posner and F. Grondin
- 2015 Lessons From The Junket Business in Atlantic City and in Macao, *The Journal of Gambling Business and Economics* 9(2): 59-95.
- Steinmüller, H.
- 2011 The Moving Boundaries of Social Heat: Gambling in Rural China, *Journal of the Royal Anthropological Institute (N. S.)* 17(2): 263-280.
- Walder, A. G.
- 1986 *Communist Neo-traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*, Berkley: University of California Press.
- Wang, W. and W. R. Eadington
- 2008 The VIP-Room Contractual System and Macao's Traditional Casino Industry, *China: An International Journal* 6(2): 237-260.
- Wang, W. and P. Zabielskis
- 2012 Making Friends, Making Money: Macau's Traditional VIP Casino System, In *Global Gambling: Cultural Perspectives on Gambling Organizations*, edited by Kingma, Sytze F., pp. 113-143, London: Routledge.
- Wang, C.
- 2014 Licensing VIP-room Contractors or Gaming Promoters in Macao: the Status quo and Improvement, *UNLV Gaming Research & Review Journal* 18(2): 105-112.
- Yang, M. M.
- 1989 The Gift Economy and State Power in China. *Comparative Studies in Society and*

History 31: 25-54.

Zhang, S. and K. Chin

- 2003 The Declining Significance of Triad Societies in Transnational Illegal Activities: A Structural Deficiency Perspective, *The British Journal of Criminology* 43(3): 469-488.

〔中国語文献〕

鮑勃

- 2010 「解析沓碼仔の灰色収入——沓碼仔の述説（4）」『九鼎』 37: 34-36.

劉品良

- 2002 『澳門博彩業縱橫』 香港：三聯書店.

〔ウェブサイト〕

澳門特別行政区政府博彩監察協調局（DICJ）

- 2021 <http://www.dicj.gov.mo/web/cn/frontpage/index.html>

澳門特別行政区政府勞工事務局（DSAL）

- 2021 https://www.dsal.gov.mo/zh_tw/standard/index.html

澳門特別行政区政府統計暨普查局（DSEC）

- 2021 <https://www.dsec.gov.mo/zh-MO/>

澳門海關（MCS）

- 2021 <https://www.customs.gov.mo/cn/customs2.html>

グローバルノート（Globalnote）

- 2021 「世界の1人当たり名目GDP国別ランキング・推移(IMF)」2021年11月3日アクセス.
https://www.globalnote.jp/p-data-g/?dno=8870&post_no=1339

日本型IR ビジネスレポート（JaIR）

- 2020 「〈IR用語集・基礎知識〉ジャンケット」2021年9月21日アクセス.
<https://jair.report/article/250/>

日本貿易振興機構ジェトロ（JETRO）

- 2018 「質の高い成長に向けた三大地域発展計画の一つに指定（中国）」2021年11月9日アクセス.
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2018/a2f116698d864282.html>

劉：信賴のギャンブル